

2016年12月19日

経済レポート

2016年11月の貿易統計の結果

～ 実質輸出には持ち直しの動きが見られる～

調査部 研究員 土志田るり子

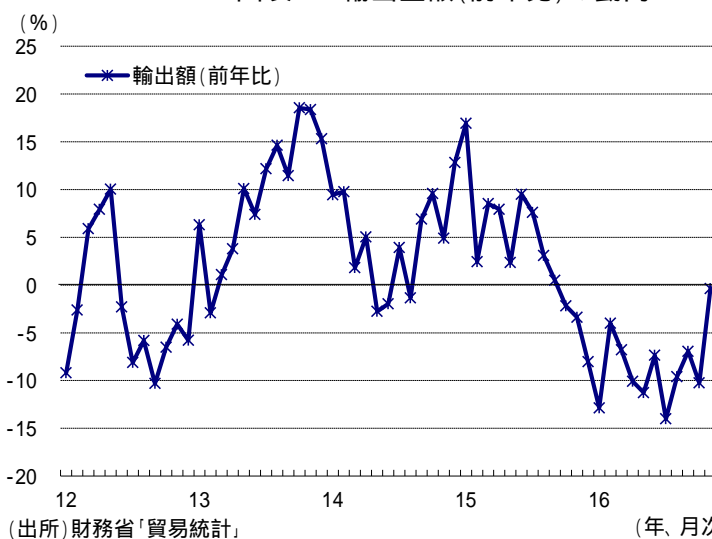
輸出の動向

11月の輸出金額は、5兆9565億円(前年比-0.4%)と14ヵ月連続の減少となった(図表1)。輸出数量指数が前年比+7.4%と上昇した一方で、輸出価格指数は同-7.3%と低下が続いた。市場の為替レートは11月8日(現地時間)の米国大統領選挙以降、円安が進んでいるが、11月の貿易取引の換算レートは1ドル=104.94円(前年比13.5%の円高)だったため、11月は円建ての輸出金額が目減りした。今後、足もとの円安の進展が反映されれば円建ての輸出額が押し上げられると見込まれる。

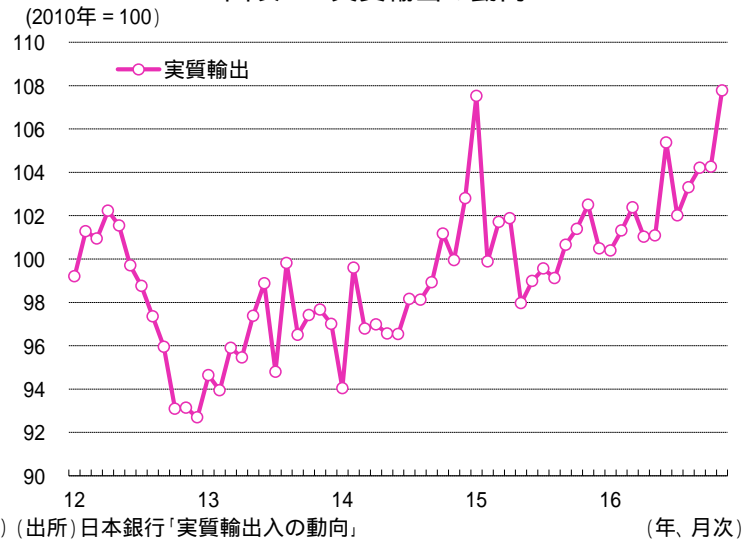
品目別の動きをみると、自動車(前年比-8.5%)、鉄鋼(同-12.1%)などが減少した一方で、自動車の部分品(同+10.4%)、原動機(同+11.1%)、半導体等電子部品(同+6.5%)などが増加した。地域別では、アジア向け(前年比+3.4%)が半導体等電子部品を中心に15ヵ月ぶりに増加したものの、米国向け(同-1.8%)、EU向け(同-2.2%)は減少した。

為替の変動等の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は、11月は前月比+3.4%と増加し、水準もリーマン・ショック直前の2008年8月以来の高さとなった(図表2)。事故や地震後のばん回生産による押し上げ効果は一巡したものの、引き続き持ち直しの動きが見られる。

図表1 輸出金額(前年比)の動向



図表2 実質輸出の動向

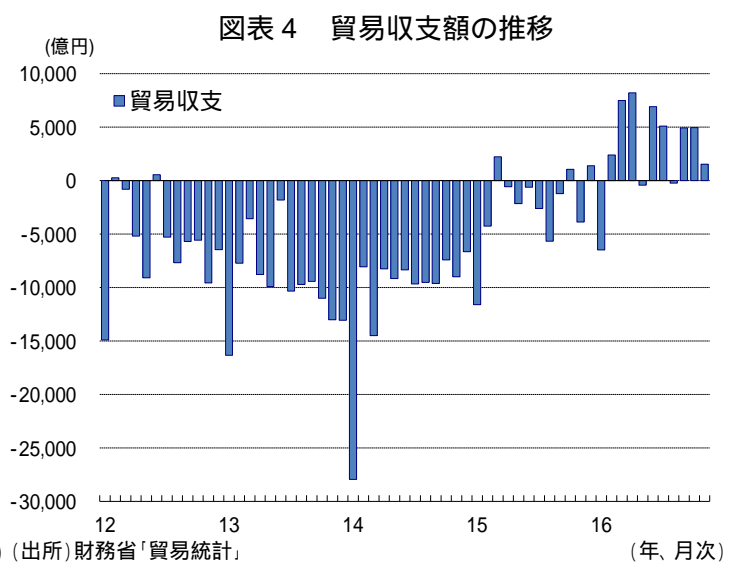


輸入の動向

11月の輸入金額は、5兆8040億円(前年比 - 8.8%)と23ヵ月連続の減少となった(図表3)。輸入数量指数は前年比 + 3.6%と上昇したが、輸入価格指数は同 - 12.0%と低下が続いた。資源価格は上昇したが、換算レートで円高が進んだことが輸入価格指数を押し下げた。

貿易収支の動向

輸出額と輸入額の差である貿易収支は、11月は1525億円と3ヵ月連続の黒字となった(図表4)。季節調整値は5361億円の黒字で、前月から黒字幅は拡大した。



ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください。